

## IT時事ネタキーワード「これが気になる！」(第87回)

### IPAが公開した「DX白書2021」が話題

2021.12.15



IPA(独立行政法人 情報処理推進機構)が公開した「DX白書2021―日米比較調査にみるDXの戦略、人材、技術―」が話題だ。「DX推進のカギとなる戦略・人材・技術を徹底解説！」というキャッチで、デジタル化時代を生き抜くため、企業にDX(デジタルトランスフォーメーション)の推進が求められる中、DXをさまざまな観点から網羅した1冊だ。

DX白書2021は10月11日のデジタルの日に創刊。約400ページにわたり、日米のDX推進状況の比較データや先進的な取り組み事例、企業でのDX推進のヒントなどが盛りだくさんにまとめられている。DXの全体像が理解できるだけでなく、DXを推進する企業にとってよい参考書にもなるだろう。

DX白書2021はPDF形式で無償提供され、このページから読める。手元に置きたい場合は「すべてをダウンロード」から入手するとよい。なお、20ページに要点をまとめたエグゼクティブサマリーも提供され、時間のない経営陣が概要を理解するのに、大まかに眺めをきかせるのにも有用だ。

そもそもIPAとは、「IT人材白書」「AI白書」「DX白書2021」

IPAではこれまで、2009年から「IT人材白書」、2017年から「AI白書」を刊行し、IT人材や新技術の動向について情報を発信してきた。ITとビジネスの関係性が深化してきたことを受け、これまでの「人材」、AIなどの「技」に加えて「戦略」という経営的な要素を加え、構想されたのがDX白書だ。

そもそもIPAは「Information-technology Promotion Agency」の略で、日本のIT国家戦略を技術面・人材面から支えるために設立された独立行政法人だ。所管官庁は経済産業省。1970年10月に特別認可法人情報処理振興事業協会として創立され、2004年に現在の形に改組され、頼れるIT社会の実現をめざす。

IPAの主な事業は、情報セキュリティ対策の実現、IT人材の育成、IT社会の動向調査・分析・基盤構築の3つ。人材育成分野では、国家試験である「情報処理技術者試験」「情報処理安全確保支援士試験」の実施機関として知られている。

情報セキュリティ関連では、「セキュリティセンター(IPA/ISEC)」で、コンピューターウイルス・不正アクセス・脆弱性の発見や被害の届け出を受け付ける。そのほか啓発情報の発信、情報セキュリティを高める技術開発・調査研究なども行う。

人材育成分野では、情報処理技術者試験をアジア各国と連携、国境を越えたIT人材の確保を支援する。ITを駆使して独自のイノベーションを創出できる若い人材の発掘・育成を目的とした「未踏事業」、将来のIT産業の担い手となる若い優れた人材の発掘・育成を行う「セキュリティ・キャンプ」なども特筆すべき活動だ。

IT社会の動向調査・分析・基盤構築については、社会基盤センターから、DX白書のほか、新たなIT社会の動向に関する調査レポート、IT人材白書、AI白書、情報セキュリティ白書など刊行物を閲覧できる。ほかにも地方での取り組み支援、各種ツールや教材の提供も行う。

DX白書2021を読み解いてみた。人材育成運用から従来ビジネス脱却まで… 続きを読む